

## まとめ

発掘調査の結果、大溝が造られた時期が飛鳥時代後半（約 1,300 年前）であることがわかりました。相可高校の南側には、条里型地割りの面影を残した田園風景が広がっています。

条里型地割りとは、奈良時代から鎌倉時代頃に実施された耕地の区画のことです。この大溝は条里型地割りの方向とは異なっていますが、櫛田川につながる水路として使われていたと考えられます。

平安時代のおわり頃（約 900 年前）に大溝が埋まったのち、鎌倉時代おわり頃から室町時代はじめ頃（約 700 年前）に両側を走る溝 2、溝 3 が造られました。今回見つかった 3 基の中世のお墓は、溝 2・溝 3 と同じ頃のもので、お墓の南側からは同じ頃の柱穴が見つかっていますので、お墓の南はお屋敷だったと思われます。相可高校の南には伊勢本街道が通っているので、このお屋敷は街道に面していたと思われます。

調査区からは弥生時代前期（今から約 2,500 年前）の土器も見つかりました。相可高校の敷地では、長い年月をかけて人々が暮らし続けていたことが明らかになりました。



大溝から出土した土器（奈良時代～平安時代）



中世墓から出土した土器と腰刀



中世墓から出土した腰刀（鎌倉時代おわり頃から室町時代はじめ頃）

調査遺跡名	: 相可出張遺跡第 2 次
所在地	: 三重県多気郡多気町相可
原因事業名	: 平成 22 年度 相可高等学校新実習棟建築工事
調査主体	: 三重県埋蔵文化財センター
調査期間	: 平成 22 年 4 月 28 日～7 月 15 日
調査面積	: 約 1,000 m <sup>2</sup>

# おうかではり 相可出張遺跡 現地説明会資料

平成 22 年 7 月 3 日 13:30～

三重県埋蔵文化財センター

## はじめに

相可出張遺跡は、多気郡多気町相可の相可高等学校敷地内にあります。学校の北はすぐに櫛田川で、ここはその南岸の台地上にあたります。

平成 7 年度の武道場新築時に実施した発掘調査では、大溝や井戸などが見つかりました。今回の調査は武道場北側に新実習棟が建設されるのに先だって実施しました。その結果、平成 7 年度に見つかった大溝の続きや、中世のお墓などが見つかりました。



大溝（北東より）



相可高校（相可出張遺跡）の位置

## 調査の成果

### ■大溝（溝1）

平成7年度に、武道場の下で発見された大溝の続きです。

大溝は、櫛田川に向かって水が流れるようにつくられています。櫛田川（東西方向）に対し、大溝（南北方向）は垂直に交わるようになっています。幅約6m、深さ約2mで、飛鳥時代のおわり頃（約1,300年前）に造られ、平安時代のおわり頃（約900年前）には埋まったようです。大溝の西斜面では、平安時代のおわり頃の石積みが見つっています。崩れた溝を復旧した、「護岸工事」の跡と思われる。

### ■溝2、溝3

大溝の両側を走る2本の溝は、大溝が埋まった後に造られました。使われた時期は、鎌倉時代おわり頃から室町時代のはじめ頃（約700年前）です。

### ■中世墓

武道場の西側で、中世のお墓を3基発見しました。いずれも鎌倉時代おわり頃（約700年前）に埋葬されたと考えられます。中からは、遺体といっしょに納められた土器（鍋・皿・小皿）や鉄製の腰刀が出土しました。

鍋は、底に煤がついているので、調理に使われた後、お墓に納められたと考えられます。

### ■生活の痕跡

調査区の西側からは、柱の穴がいくつも見つかりました。はっきりとは分かりませんが、住居や小屋などの建物があったと考えられます。武道場の下からは奈良時代の建物や、鎌倉時代から室町時代の井戸が見ついているので、それらとも関係していると思われる。

その他では、弥生時代前期（今から約2,500年前）の壺や甕（煮炊きする土器）も見つっています。相可出張遺跡で弥生時代の土器が見つかったのははじめてです。



大溝（溝1）、溝2、溝3（東より）



大溝の高さと護岸工事（東より）



中世のお墓（南より）

